みかん作りが盛んな谷川

中原町や雲谷町では、初夏にみかんの白い花が咲き、甘い香りに包まれる。秋にはオレンジ色の実がたわわに実る。みかん農家の人々は，箭定、消毒、収穫にと忙しく働いている。みかんの生産量は、10 アール当たり露地で 3 トン、ハウスで 5 トンほどになり、柑橘組合や農協などを通して、近隣の都市の市場に出荷されている。

谷川小学校の中にもみかん畑があり、温州みかんや夏みかん30本余りが校区の方の協力で栽培され、毎年美味しいみかんが収穫されている。今年は新たに清見みかんの木が寄付された。

毎年、3年生は総合の時間に「谷川のみかんのひみつ」の学習をしている。

＊　みかんの花の観察
＊　摘果
＊　みかんを生産している地域調べ
＊　収穫
＊　集荷場の見学、聞き取り
＊　みかんのお菓子作り
＊　ハウスと露地の違い

等、子どもたちの実態を把握したり、思いをくみ取ったりしながら学習を進めている。

＜みかんの数を調べる子どもたち＞

中原町みかん作りの歴史

谷川校区でみかんの栽培が始められたのは、明治時代の中頃と言われている。その後、大正時代の初め頃、中原町の区有地がみかんの植え付けを目的に貸し付けられたが養蚕が盛んになったためあまり発展しなかった。この頃「立巌柑橘組合」が生まれた。

昭和37年「日東電工」が原町平山に進出し、みかん栽培は平地から山側に移った。そして農地開発事業によるみかん園造成により増産へと発展した。

しかし、その後、全国的なみかんの過剰生産や消費の多様化，オレンジの輸入自由化などの問題が起こり、農地開発事業から離れる人々が出てきた。

ハウスみかんの栽培は20年ほど前から導入され、現在も続いている。

谷川小学校　　伊藤祐子